

学外研修報告

平成 30 年度秋田大学機器・分析技術研究会に参加して

共通機器部門 藤高 仁

1. はじめに（目的等）

本研究会は、各教育・研究機関の機器分析に携わる技術職員が、日頃の業務の成果等を討論するものである。本研究会を通じて全国の技術職員と交流し日常の業務遂行に役立てるため出席した。また休憩時間を利用して本研究会の開催・運用を決定する地域代表者会議への出席と機器・分析センター協議会技術職員会議の進行及び協議会本会での報告内容の協議を行った。

2. 期間・場所

期間：平成 30 年 9 月 6 日～7 日

場所：秋田大学 手形キャンパス

3. 参加者等

大学、高等専門学校、大学共同利用機関等の技術職員 200 名以上

4. 研修内容

まずは特別講演 1：株式会社 秋田今野商店代表取締役社長 今野 宏様による「麴・その古くて新しいもの」 特別講演 2：秋田県総合食品研究センター 醸造試験場 場長 渡邊 誠衛様による「秋田の清酒酵母開発」を 2 件聴講した。講演後は 60 件のポスター発表に移り発表者や参加者との内

容の濃い討論が行われた。

二日目は午前より 14 件の口頭発表が行われ熱のこもった議論が交わされた。

5. まとめと感想

特別講演にて何れも醗酵をベースにした講演であった。今野様より太古の昔より人と共存してきたことで毒を造る機能が発揮していない菌を利用することにより醗酵食品が発展してきた話と渡邊様によりその菌の一種である酵母を使用する日本酒（新酒）作りにおいて重要な酵母開発の講演があった。

技術職員の発表では 60 件のポスター発表と 14 件の口頭発表が行われた。

例年よりも私が担当する核磁気共鳴装置に関する発表が多く行われており活発な討議が行われ大変有意義な会であった。